



近江商人の歴史と最近のドラマ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。滋賀大学経済学部は、今から九四年前、大正一二年（一九二三）四月に開校した彦根高等商業学校にそのルーツがあります。同校には、昭和一〇年（一九三五）に近江商人研究室が設置されました。これは、かつて商業が盛んで、江戸時代には無数の近江商人を全国各地へ送り出した滋賀の地で教育・研究を行う以上は、近江商人研究をその大きな特色の一つにしよという方針に基づくものです。ここから彦根高等商業学校での近江商人の歴史資料の調査や収集が本格的にスタートします。この近江商人研究室の後継が経済学部附属史料館で、現在は約一七万七〇〇〇点の古文書や近江系企業史資料などを保管し公開するに至っています。

しかし、ひとくちに昭和一〇年と言っても、平成生まれの皆さんにはピンとこないでしょう。ところで昨年以来大ヒット中のアニメーション映画「この世界の片隅に」を観た人はいるでしょうか？あの物語は昭和八年から始まっています。

また三月で終了した朝の連続ドラマ「べっぴんさん」の主人公の父親である坂東五十八（生瀬勝久さんが演じていました）は、株式会社レナウンの創業者・佐々木八十八がモデルでした。佐々

木八十八は京都出身ですが、ドラマでは坂東家の実家は近江（滋賀ではなく「近江」と呼ばれていました）にある設定になっていました。そして次男だった坂東五十八は、長男に商売上の得意先を全部譲って大阪へ出て、会社を興して成功する…というストーリーでしたが、これは伊藤忠商事株式会社と丸紅株式会社の創業者で、豊郷町出身の伊藤忠兵衛が、兄の長兵衛に九州・中国地方の得意場を分割して譲ったエピソードを思い起こさせます。

さらに言えば「べっぴんさん」では、東近江市五個荘の近江商人屋敷や、豊郷町の豊郷小学校旧校舎などがロケ地になりました。豊郷小学校は、昭和一二年に丸紅商店の専務だった古川鉄治郎の寄附によって建てられています。設計を担当したのはメレル・ヴォーリズの建築事務所でした。当時ヴォーリズは滋賀県内でも多くの建物を手がけており、史料館のとなりの陵水会館もそのひとつです。スペイン風の潇洒な建物ですから、皆さんも少し気になっていたのではないのでしょうか。

こうして見てくると、近江商人や近江系企業をめぐる歴史には、いまだに創作の世界に携わる人びとの想像力をかき立てるものがあるようです。史料館では実際の歴史資料に触れながら、そうした歴史を学ぶことができます。（史料館長 青柳周一）

平成二九年度春季展示 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

「江戸時代、近江の湖辺の暮らし」 うみべ

五月一日（月）～六月九日（金） 九時三〇分～一六時三〇分

土日祝日休館。

【ギャラリートーク】

五月一八・一九・二六日、六月一・八・九日（すべて木金）

一二時三〇分～一三時

夜間のゼミ見学につきましては対応させて頂きませんのでお申し出下さい。